

かがやき

加入団体活動紹介

栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会芳賀支部



キッズアート撮影会

はがまるバスツアー

主 内 容

- 総会……………2
- 会員研修……………3・6～7
ハリボックリ作り
道の駅視察・薬のこと
- かがやく市民のつどい…4～5
- ジェンダー川柳コンクール…8

【編集・発行】芳賀町女性団体連絡協議会

当会も高齢化は顕著で、構成団体全てで入会の減少もあり、存続自体が難しくなって来ています。自分と同様に会も年をとったのです。年を重ねるとはどんなことなのか、実際自分が年を取りましたが、複雑で、結局のところ各個人の想いは様々であるのに変わりありません。変わったのは、情報技術が生活を変化させていることです。

私の好きな話に「ヒトだけが年を取っても生きている」というものがあります。生き物は子孫を残すことが生きる意味なので、例えば、川を遡上する鮭を想像してください。

ヒトは進化の過程で未熟過ぎる子を産むことになり、助け合って子育てをします。そういう群れの中に、年寄りがいる群れの方が繁栄したというものです。

この会も、家族や地域の役に立ちたいと活動している人たちが集まっています。



会長
増淵さつき

ジェンダー平等への道

日本が「女性差別撤廃条約」を批准（1985年）して40年を迎えようとしています。それに先立ち国内21の新聞社などが実施した性別役割分担意識に関する合同アンケートが公表されました。「家事・育児はどう担うべきか」の回答は意識のうえでは「性別に関係なく」が全体で81%と多いものの、実態では「女性・どちらかといえば女性」が86%という結果でした。

ジェンダー（社会的・文化的性別）平等について実態は伴わないものの意識は高くなりつつあります。これまで男女共同参画社会の実現にむけ啓発活動をしてきた者にとって明るい兆しです。子どもたちのジェンダー川柳にも、父親が家事を担う姿や家事・育児は家族みんなで担う姿が読み込まれています。

県でも2023年からみんなで家事をする「とも家事」キャンペーンが始まっています。昭和世代の頃は家事育児への平等意識は話題にすることさえ遠慮がちでしたが、平成～令和になり、行政自らこのテーマで音頭取りすることに隔世の感があります。

時代は動きつつあります。SDGs5「ジェンダー平等を実現しよう」目標達成のためともに活動しましょう。

今年度の事業開催にあたり多くの皆さまのご支援とご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

芳賀町女性団体連絡協議会第25回定期総会



令和6年5月28日(火)町民会館多目的室において大関町長のご臨席をいただき開催されました。芳賀町ひばりの会の岡田由美子さんを議長に円滑な議事進行で、無事総会が終了しました。本年は役員改選もあり、新メンバーを迎えての出発です。

総会后、(公財)とちぎ男女共同参画財団の芳村佳子氏を講師に迎え「地域で共に支え合う“防災”」をテーマに第1回研修会を開催しました。財団発行の「防災ハンドブック」を活用し、男女共同参画の視点で取り組むことの重要性を改めて確認しました。

令和7年度芳賀町女性団体連絡協議会役員

役職	氏名	団体名
会長	増淵 さつき	芳賀くらしの会
副会長	石下 篤子	J Aはが野芳賀地区女性会
〃	小山 佳子	芳賀町ひばりの会
〃	廣木 初江	芳賀町ひばりの会
書記	齋藤 芳子	芳賀つばさの会
〃	山崎 みのり	事務局(生涯学習センター)
会計	石下 尚美	芳賀町農村生活研究グループ協議会
〃	人見 章子	栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会芳賀支部
理事	小林 峰子	J Aはが野芳賀地区女性会
〃	岡田 由美子	芳賀町ひばりの会
〃	小林 久子	芳賀くらしの会
〃	中村 由美子	芳賀くらしの会
〃	網川 みね子	芳賀町農村生活研究グループ協議会
〃	小林 早苗	芳賀町農村生活研究グループ協議会
〃	山崎 ひろ子	芳賀つばさの会
〃	今井 由佳	栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会芳賀支部
〃	山本 克子	栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会芳賀支部
監事	磯 孝	芳賀つばさの会
〃	酒井 澄子	J Aはが野芳賀地区女性会

総会



第1回研修会



第2回会員研修会

令和6年9月13日



ハリボックリを作ろう！ 自分らしいアレンジで癒しを



講師 鉢村 絵美氏



花と心の開花プロデューサー
鉢村 絵美

集合意識勾玉セラピスト
花教室FlowerSalon87coco
商標登録作品 ハリボックリ®
地方再生プロジェクトはがめぐ代表



素敵な作品の完成!!



参加者の声2

阿久津 ふみ子

女団連の令和6年度第2回研修会「ハリボックリ作り」が9月13日、水橋公民館にて、芳賀町在住の鉢村絵美氏を講師に開かれました。

ハリボックリとは、粘土の焼締めでハリネズミを作り、背に松ぼっくりを接着し、スカンディアモスを埋めたもふもふの愛らしい癒し効果抜群のインテリア植物です。

スカンディアモスは、スカンジナビアの森に育つトナカイが食する苔で、空気清浄、消臭、調湿等多くの効用のある、水やり不要の自然素材で、それに天然染料のみで多彩な染色をしたカラフルな苔です。

作業は松ぼっくりに苔を埋めるだけですが、繊細な苔の扱い、色選びに苦心しつつも、日常の雑多を離れ、手仕事に夢中になったひと時でした。

その後、完成品を並べ、唯一無二の“みんな違ってみんな良い”個性輝く作品を称賛し合い、撮影に余念のない鑑賞会を楽しみました。

手芸の世界にもSDG'sが浸透、環境に優しい取り組みが、着実に進行していることに触れ、自らを省みる契機ともなりました。

参加者の声1

網川 まゆみ

講師の鉢村絵美先生は、自然豊かな芳賀町に憧れ、10年程前に宇都宮から移住し、双子の小学生のお子さんを育てながらお花の教室等もされているそうです。

ハリボックリは、松ぼっくりの大きさに合わせて紙粘土で一つ一つ先生がハリネズミの体を手作りされたのですが、その愛らしい姿に「かわいいー」と連呼してしまいました。

その土台の松ぼっくりにボンドでドライフラワー、木の葉、色とりどりのスカンディアモスを差し込むように貼り付けていきます。

スカンディアモスとは、北欧スカンジナビアの森で育ったトナカイが食べる苔で、空気清浄、消臭、調湿等たくさんの効果があり、生きているのですが水やりなどの手入れもいらないそうです。

参加者の皆さん、作品作りに夢中になり、無口になっていましたが、一人一人全く違う出来栄で個性溢れ、みんなかわいかったです。

楽しく癒される時間が過ごせました。



令和6年度「かがやく町民のつどい」 おげさまのちから

令和7年1月18日 芳賀町民会館大ホール

～人とながって、愛情と誇りをもって生きる～

芳賀町女性団体連絡協議会主催講演会

『幸せに暮らすには「おかげさまで…」と感謝し、お互い手を取り合っていくことが大切です。地域づくりは、仲良く生きていくための仕掛けづくり』と話す高久誠氏。

地域のつながりの強化や課題解決のヒントを、この講演会と参加者によるグループディスカッションを交えて考えていく中で、『より自分のこと』として、改めての気づきをもらいました。



社会教育士

講師：高久 誠 氏

神奈川県川崎市生まれ。
国士舘大学体育学部(中高・保健体育)卒業。
玉川大学教育学部通信教育過程(小)修了。
芳賀町学校運営協議会委員。
芳賀町社会福祉協議会「ボランティアセンターはが」登録員。
芳賀町の文化財や教育資源を住民の協力を得ながら教材化し、芳賀東小学校の教育目標である「ふるさとを思う子」の育成に尽力。



アンケートより

- 単に聞くだけでなく、グループワークを通して町民の方と交流でき、より「つながり」を感じられる会でした。
- 普段のなにげない生活の中に、おかげさまのちからがたくさんある事に気づかされました。
- これからは思いやり、感謝をもって日々生きていきます。
- 人と人のつながりは自分を幸せにする、人と人のつながりを大切にしたいと改めて思った。
- 「おかげさま」の言葉がとても重い言葉だと再認識することができました。
- 町外からの参加でしたが、町民の方とお話したことで、見えていなかった芳賀町の魅力を発見しました。



白熱の
ディスカッション

色々な気づきを
得られました

講演前のアトラクション

芳賀東小学校 郷土芸能クラブの皆さんによるお囃子と民謡



伝統文化の伝承は、地域づくり、仲間づくりの大切なツールです。これからもがんばって!!
とても良いお囃子だったとたくさんの応援のこたばをいただきました。

アンケートより

- 子どもが大きくなり、延生の盆踊りに行けなくなったが、今年は行きたい気持ちになった。
- 音で空気が清められるような素晴らしい演奏でした。子どもたちの一生懸命やる姿にエネルギーをたくさんもらいました。ここまで指導する高久先生の力も改めてすごいと感じました。伝統芸能の育成、継承の活動を通して、たくさんのつながりや学びがあると感じました。知り合いを増やすための手段も分かりやすく、自然に身についたような気がします。
- 太鼓のアトラクションがすごくよかった。地元に住んでいても聞くことがありませんでした。ありがとうございました。郷土を愛する気持ちがすごいです。

3～4人の小グループによる
グループディスカッション中です



第3回会員研修会

令和6年11月20日

視察研修会 道の駅明治の森黒磯

講話「道の駅黒磯の特徴」

明治の森 黒磯駅長 大束 絵梨 氏



女性駅長さんならではの
「おもてなし」



参加者の声1

佐藤 幸枝

研修先「道の駅明治の森黒磯」の駅長である大束絵梨さんは、とても魅力的な方でした。千葉県出身の彼女が、なぜ現在に至ったのか、非常に興味深かったです。建築の仕事から牛がいる暮らしがしたいと、牧場・酪農の仕事をして、日本にとどまらず興味がありやりたいこと、なんか面白そうと思うことに導かれ、駅長になられたとのことでした。

目標は、農家が集まる道の駅にしたい、農業が楽しいと価値を伝えたい、と前向きな生き方、行動に感動しました。

参加者の声2

酒井 澄子

11月20日、曇り空ではありましたが、道の駅明治の森・黒磯に視察研修に行ってきました。道の駅に着いて、直売所の隣の明るいガラス張りの部屋に案内されました。早速駅長の大束絵梨さんがスライドを映しながら、ご自身の経歴を話されました。

離島暮らしやベトナム在住を経て、酪農に携わった経験から、那須塩原市の地域おこし協力隊に着任し、乳製品・農畜産物担当に。そして道の駅明治の森・黒磯駅長として、今取り組んでいるということです。41歳という若さです。

大束さんが言うには「女性はやったことがない」と言われ「じゃあ私がやろう」と思ったそうです。自分の考えや価値観を強く持っていて、それを曲げることなく生きてきたのだと思いました。さらに頑張ってほしいとエールを送りたいです。

最後に大束さんから農業をやっている者にとって最高のほめ言葉を聞くことができました。「Farmer is hero」

帰りのバスの中は、みんなそれぞれに話に花が咲き、あっちこっちから笑い声が聞こえる楽しい研修となりました。

参加者の声3

廣木 初江

11月20日、会員20名で「道の駅明治の森黒磯」に視察研修に行きました。この道の駅は、昨年4月にリニューアルオープンしました。

外観の自然に溶け込む色合いと、高く突き出された軒が建物を明るくし、道の駅のイメージが変わります。屋内の売店となっているスペースの天井の高さや、間接照明の温かな色合いなど特別感があり、奥に併設されているレストランと共に、かなりのにぎわいでした。

更に特別なのは、こちらの駅長の大束絵梨氏。41歳の酪農に携わった経験を持つ、千葉県生まれの小柄な女性です。大束氏がこの道の駅の駅長になるまでの道のりと、ここをどのようにしたいと思うのかをしっかりと伺ってきました。

印象深かったのは「農家が集まる道の駅」「ここから農の楽しさと価値を伝えたい」というものです。当たり前のようですが、消費者ではなく、生産者に目を向け続けることがこの役目と理解しました。館内には、乳製品加工所や菓子の製作室もあり、主に小学生に見学させることを目的にしているとのことでした。現に学校単位で多くの子ども達が来ているそうです。「農業の担い手を応援する方を応援したい」と思える有意義な一日になりました。



第4回会員研修会

令和7年2月15日

講演会 教えて！薬剤師さん

サプリメント、健康食品、市販のくすり、病院のくすりについて知りたいことはありませんか？

村井 加代子 氏



栃木県薬剤師会常務理事
塩原温泉病院薬剤課課長
栃木県女性薬剤師会副会長

講師に村井加代子氏をお迎えして、普段私たちが飲んでいる薬やサプリメントについてのお話を聞きました。

まず冒頭に、くすりとサプリメントの大きな違いの説明がありました。手軽に飲んでいるサプリメントは、くすりではなくあくまでも食品であり、病気を治すものではないことを知ってもらいたいとのことでした。そして、医薬品のような効果を期待しないことも。

サプリメントの選び方として、根拠があるかどうか、成分の機能性や有害事象報告をチェックしてほしいということでした。医薬品は、厳しい治験を経て薬機法に基づいて作られていることや管理下に置かれていること、くすりには必ず副作用があり、副作用のないくすりは効かないということを知ってほしいということです。副作用を心配してくすりを飲まないのではなく、正しく服用して病気を早く治し、元気に過ごすことが大切だと思います。くすりとサプリメントの違いを理解したうえで正しく服用し、摂取をしましょう。そして老化を予防し、健康寿命を延ばせるよう心がけましょう。



Q.健康食品で
病気が治る？

A.病気を治す効果はない。

Q.天然・自然由来の
原料なら安全？

A.普段の食べ物ではないので予期しない影響が出る可能性がある。

健康食品
5つの問題

Q.体験談は
信用できる？

A.宣伝の為、都合の良い内容のみが掲載されている場合がある。

Q.専門家の研究と
同じ効果がある？

A.誰でも同じ効果が出るとは限らない。

Q.一時的な体調不良
は効果の証拠？

A.「好転反応」は健康食品では起こらない。

参加者の声1

小筆 公子

〇〇で痩せた・痛みが消えた・物忘れが改善したなど、悩みがある人には飛びつきたくなる情報が溢れています。使った・治った・効いた これらを3た論法というそうです。錠剤やカプセルの健康食品は医薬品と混同されがちですが全く異なるものですべてが食品です。病気を治すものではないので健康維持や栄養補給のための予防として使うべきです。病気になったら確実に効果のある医薬品を使いましょう。医薬品には主作用と副作用があります。副作用はどの薬にもあるので、服用後は初期症状をよく観察すること、これは本人しかわからないことなので大切なこと。そして少しでも不安なことは薬剤師さんに確認してほしいとのことでした。本人がよかれと思い使っている健康食品を否定する必要はないでしょう。

あくまでも健康の基本は「栄養のバランスのとれた食事・適度な運動・十分な休養」と言われています。

現役の薬剤師村井加代子さんから学んだ知識を今後の生活の中で実践しようと思っています。

参加者の声2

関 優子

今日の研修会の講話は「教えて！薬剤師さん」と題して塩原温泉病院で薬剤師をされている村井先生にお越しいただき、薬とサプリメントについて御講話をいただきました。

講話では、サプリメントは食品に分類され、健康維持と栄養の補給であり、多く飲んでしまうと中毒になってしまうので、自分の健康管理は自己責任になってしまう。(対して)薬は病気の治療を目的としているので医師や薬剤師の管理下にありそれに対して医師がちゃんと責任を持っているということの違いを知ることができました。

お話を聞いた後に思ったことは、自分もサプリメントを摂った時に負担がかかることがあるので、まずは、食生活の見直しが前提であり、サプリメントを摂るなら自分の体をよく観察し、チェックしておくすり手帳に記入しておき、薬剤師さんと上手におつきあいができるといいのかなあと思いました。

第13回 芳賀町ジェンダー川柳コンクール

主催：芳賀町女性団体連絡協議会

男女が喜びも責任も分かち合い、個性と能力を十分に発揮できる、男女共同参画社会の形成に向け、青少年の理解や関心を高めることを目的として始めたジェンダー川柳コンクールも、今年で13回を数えました。
町内の小学4・5・6年生と中学生を対象に、応募作品543句の中から15句が入賞となりました。
作品からは子どもたちの目に映っている「今」が見え、感心したり、希望が持て、頼もしく思います。
入賞作品は、芳賀町健康カレンダーにも掲載されます。
審査にご協力いただいた皆さまや学校関係の皆さま、応募くださいました生徒の方々に感謝いたします。

ジェンダー川柳コンクール入賞作品

最優秀賞	思い合おう 皆「普通」は 違うから	芳賀中学校2年	鎌田 桃歌
優秀賞	うちのパパ 家事も育児も 上級者	芳賀北小6年	久保翔太郎
佳作	大切に 人の個性は 無限大	芳賀中1年	稲川 朋華
	ジェンダーに とらわれないで チャレンジだ	芳賀中1年	萩原 梨桜
	「こうすべき」そんな偏見 変えるべき	芳賀中1年	塩沢 友菜
	周りの目 気にせず育め 個性の芽	芳賀中3年	飯田 鴻空
	女らしい 男らしいより 君らしい	芳賀南小5年	阿久津 仁
	多様性 自分らしさを わすれずに	芳賀南小5年	平石 纏
	性別で 邪魔しちゃだめだよ 生き方を	芳賀東小5年	木俣 絢太
	せいべつで はたらきかたを かえないで	芳賀北小4年	小山田壮真
	さんかんび ママだけきてる パパきてね	芳賀北小4年	小林 楓
	いつまでも 日本のトップは 男だけ?	芳賀北小5年	菊地 蘭華
	認め合う 十人十色の かがやきを	芳賀北小6年	赤井 結香
	多様性 受け入れ広がる 可能性	芳賀北小6年	川俣 雄聖
	制服も 選べるのねと 母が言う	芳賀北小6年	美濃山さくら

編集後記

ジェットコースター並みの「三寒四温」に加え、早々飛散している「花粉」やまだまだ収まらない「コロナ」に「インフルエンザ」。免疫力の強化が当面の課題です。
気候変動がもたらす災害の傷跡は、増々大きくなるばかり。
一日も早い復興を願っています。
第25号発行にあたり、改めて原稿をお寄せくださった方々にお礼申し上げます。

— 編集委員 —

石下 篤子 網川みね子
山本 克子 齋藤 芳子
岡田由美子 増渕さつき

印刷 株式会社 益子印刷
0285-72-3131